

# サーサナ

第69号 仏暦2567（西暦2025）年11月15日

---

## 仏教は偶像崇拜か（2）

「阿弥陀仏の図像を『方便法身の尊形』といいます」と前回に書きました。

浄土真宗では阿弥陀仏（阿弥陀如来あるいは無量寿如来ともいう）を本尊としており、寺院や各家庭のお仏壇では、その木像あるいは絵像が中心に奉懸されているのが通例です。しかしながら、これ以外に名号本尊といって、「南無阿弥陀仏」（六字名号）、「南無不可思議光如来」（九字名号）「帰命尽十方無碍光如来」（十字名号）の三種類があります。

親鸞聖人ご自身は、立派な堂宇をそなえた寺院に居られたわけではなく、主として草庵ないし道場のようなところで教えを説かれていました。そしてそこでは「帰命尽十方無碍光如来」と書した掛け軸を正面に掛けてこれを本尊とされていたようです。

蓮如上人は「他流には、名号よりは絵像、絵像よりは木像、というなり。当流には、木像よりは絵像、絵像よりは名号、というなり。」とおっしゃっています（蓮如上人御一代記聞書）。その意味は、浄土教の他の流派（浄土宗や時宗）では、同じ本尊であっても木像-絵像-名号の順に格付け（？）されているのに対して、浄土真宗ではむしろ名号が本尊としてふさわしい」ということです。なぜかという、木像ではその形に執着してしまい、仏像そのものを仏だと勘違いする傾向を生じかねないからです。つまり、物モノや形カタチへの執着心が生まれやすくなる、ということです。これに対して、文字が記されている掛軸では、そういう執着心は生まれにくいでしょう。

では、寺院が名号ではなく木像を本尊としている理由は何でしょうか？これについては「親鸞会」という組織が本願寺を批判している点でもあるのですが、その批判には一理あると思います。あえて理由をあげるとすれば、寺院の構造が関係します。大きな法要にお参りされていればお分かりのように、本堂では僧侶は内陣と外陣に着座します。内陣に着座する場合は、中央の御本尊を

横から仰ぐかっこうになります。そこで木像の場合は三次元立体ですから、その姿を目にすることができず、これがもし絵像や名号であるとする、二次元平面になって目にすることができません。多くの真宗寺院は前身が道場や説教所でしたが、そこではおそらく木像ではなく名号本尊または絵像本尊が奉懸されていたはずで

す。大切なことは、表現された形式はいかようであれ、それはあくまでも表現なのであって本質ではない、ということです。仏の本質は真実です。この真実を仏教用語では「真」とか「如」とか「法」といったりもしますが、真実に対してどこまでも謙虚に信順していくことが私たちには求められています。仏への礼拝というの、形式として拝むということではないのです。真実からの呼び声に耳を塞いでいる限り、礼拝は偶像崇拝にしかありません。

## 法要行事について

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。



### 十二月 成道会（じょうどうえ）

約2500年前、北インドでお釈迦様がすとりを開かれ仏陀となりました。12月8日、35歳のときであったと伝えられています。お釈迦様のすとりから仏教は始まりました。私たち仏教徒にとって最も神聖な記念日です。

❖ 日 時 12月8日（月）午後1時～2時半【午後0時半から受付】

❖ 内 容 勤行（和文仏教聖典読誦・正信偈同朋奉讃）  
対談形式による法話

❖ 持ち物 『和文仏教聖典』『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）

❖ 法 話 西川舜優師（真宗高田派布教使）+当寺住職

「現代人にとっての浄土真宗」をテーマとして、聴聞のみなさまからの質問や意見も交えながら、西川師と当寺住職が対談します。

「浄土ってほんとうにあるの？天国とどう違うの？」「何のために念仏するの？」「他力本願でいいのか？」「お釈迦様と阿弥陀様とどっちが偉い？」・・・こんな疑問を感じたことはありませんか。ざっくばらんに話し合ってみましょう。

## 十二月 門徒総会

上記の法要に引き続き、門徒総会を開催します。年間の活動報告をし、皆様からのご意見をうかがいます。

### 一月 修正会（しゅしょうえ）

修正会とは、新年を祝い、また求道の決意を新たにするための法要です。家族揃って、初詣を兼ねて本堂にご参拝ください。

- ❖ 日 時 1月1日（木）午前10時～11時【午前9時半から受付】
- ❖ 内 容 勤行（嘆仏偈・和訳正信偈）、年頭法話
- ❖ 持ち物 『和訳正信偈』『真宗大谷派勤行集』
- ❖ 記念品 手づくり鏡餅

### 三月 涅槃会（ねはんえ）

兼 年間物故者追弔会

兼 春彼岸会

涅槃会とは、釈尊の入滅（入涅槃＝完全なる安らぎである死を迎えられたこと）を記念する法要です。本法要にあわせて、2024年の間に亡くなられた当寺御門徒を追弔いたします。また兼ねて春彼岸法要ともなります。

- ❖ 日 時 3月15日（日）午後2時～4時【午後1時半より受付】
- ❖ 内 容 年間物故者追弔のことば  
勤行（和文仏教聖典読誦、正信偈同朋奉讃）  
住職法話
- ❖ 持ち物 『和文仏教聖典』、『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）

### 寺報発送について

最近の諸物価高騰は、印刷代金や郵便料金にも及んでいます。寺報「サーサナ」創刊時には80円だった定型郵便料金は今110円です。少しでも経費削減したいところです。そこでお願いですが、寺報を受け取るのに紙版ではなく電子版（PDFファイル）でいいよ、という方がいらっしゃいましたら、ぜひメールでお知らせ願います。当寺のメールアドレスは末尾に記載してあります。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

## 年忌法要

来年（2026年）は没年が下記に相当する方の年忌になります。

1 周忌	2025年（令和7年）	< 2 7 回忌 >	2000年（平成12年）
3 回忌	2024年（令和6年）	3 3 回忌	1994年（平成6年）
7 回忌	2020年（令和2年）	< 3 7 回忌 >	1990年（平成2年）
1 3 回忌	2014年（平成26年）	5 0 回忌	1977年（昭和52年）
1 7 回忌	2010年（平成22年）	< 7 0 回忌 >	1957年（昭和32年）
< 2 3 回忌 >	2004年（平成16年）	1 0 0 回忌	1927年（昭和2年）
2 5 回忌	2002年（平成14年）		

大谷派儀式条例に定める年忌は、1・3・7・13・17・25・33・50・100、およびそれ以後100年毎、となります。しかし地域によってはく　　>内やそれ以外の年忌法要を勤める場合があります。

- ❖御自宅で開催の場合、駐車場の確保をお願いします。
- ❖僧侶が袈裟衣を着替えるための部屋を用意して下さい。
- ❖勤行本（正信偈同朋奉讃）を人数分用意してください。足りない場合は当寺に必要部数をお伝え下さい。
- ❖開催の前日までに、仏具のおみがき、お内仏の清掃をしましょう。
- ❖教心寺本堂で開催の場合、使用料として15,000円をお願いしています。

## 会費の納入について

会費の期限切れの方は、更新をお願いします。皆様の納入年度は封筒宛名シール下部に記されています。1年で1000円ですが、事務軽減のため、複数年を納入していただけるとたすかります。

郵便振替00880-4-68473「教心寺」、または現金手渡しで。

---

**真宗大谷派 教心寺**（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弑（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：052-801-1381 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <https://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>

---